行動分析学事典

A5 判・852 頁　函入上製　定価（本体 20,000 円 + 税）　ISBN978-4-621-30313-9

日本行動分析学会 編

- 見開き４ｐの読み切り構成で，どの項目も興味深く読み通すことができる，中項目事典
- 歴史から理論，実践までを最前線で活躍する研究者がわかりやすく解説
- 行動分析学の発展に資する専門用語も整理されており，初学者から研究者まで必携の一冊

関連書籍

発達障害事典
日本 LD 学会 編

A5 判・638 頁　定価（本体 20,000 円+税）
ISBN978-4-621-30046-6

社会心理学事典
日本社会心理学会 編

A5 判・706 頁　定価（本体 20,000 円+税）
ISBN 978-4-621-08107-5

発達心理学事典
日本発達心理学会 編

A5 判・712 頁　定価（本体 20,000 円+税）
ISBN 978-4-621-08579-0

産業・組織心理学ハンドブック
産業・組織心理学会 編

A5 判・586 頁　定価（本体 13,000 円+税）
ISBN 978-4-621-08118-1

心理臨床学事典
日本心理臨床学会 編

A5 判・774 頁　定価（本体 15,000 円+税）
ISBN 978-4-621-08408-3

応用心理学事典
日本応用心理学会 編

A5 判・696 頁　定価（本体 20,000 円+税）
ISBN 978-4-621-07807-5

未知をひらく、これからも。150th MARUZEN

丸善出版株式会社　〒101-0051　東京都千代田区神田神保町 2-17 神田神保町ビル　書籍営業部
TEL (03)3512-3256　FAX (03)3512-3270　https://www.maruzen-publishing.co.jp

丸善出版：発行　FAX（03）3512-3270

注文書

行動分析学事典 ISBN978-4-621-30313-9
定価（本体 20,000 円 + 税）　　冊

　　冊

お名前

ご住所　〒

TEL　　－　　－

取扱店

※ご注文いただいた個人情報は、書店、取次(流通)・弊社間での商品手配の目的に利用させていただきます。

tom.19.A0D

丸善創業150周年記念出版

行動分析学事典

Behavior Analysis

日本行動分析学会　編
A5 判　852 頁
定価（本体 20,000 円）
ISBN978-4-621-30313-9

科学的な実験により確かめられたエビデンスに基づく心理学として注目を浴びる行動分析学
歴史から理論，応用，実践まで全体像を体系的にまとめ上げた中項目事典

編纂委員主幹
武藤 崇　同志社大学 心理学部 教授

編纂委員
井澤 信三　兵庫教育大学大学院 特別支援教育専攻 教授
大河内 浩人　大阪教育大学 教育学部 教授
中島 定彦　関西学院大学 文学部 教授
藤 健一　立命館大学 名誉教授

編纂顧問
坂上 貴之　慶應義塾大学 名誉教授

丸 善 出 版

刊行にあたって（一部抜粋）

「人は，なぜ，そのように行動するのか」 行動分析学とは，この問いを，個人（人を含む動物）と環境との相互作用の観点から分析していく，ユニークな学問体系のことです．20 世紀中盤に，米国の心理学者，B. F. スキナーによってその礎が作られ，今も，その知見が累積されつづけています．

日本行動分析学会は，1980 年に「日本行動分析研究会」としてスタートし（その当時の会員数は 95 名），1983 年に学会として第 1 回年次大会が開催され，その後，国際行動分析学会の日本支部になりました．2015 年には一般社団法人となり，2018 年現在，会員数は 1000 名を越える規模となりました．

その一方で，日本において，これまで行動分析学に関する事典が公刊されたことはありませんでした．しかし，2013 年にアメリカ心理学会による APA Handbook of Behavior Analysis という本格的なハンドブックが公刊され，2015 年に公認心理師法が成立し，2017 年には同法が施行されることになりました．そこで，一般社団法人 日本行動分析学会として，行動分析学に関する正確かつ最新の情報を提供することは，喫緊かつ重大なミッションであると考え，丸善出版より『行動分析学事典』を公刊し，その後，本事典の改訂版を公刊し続けていく，というプロジェクトが，2016 年に始動することになりました．

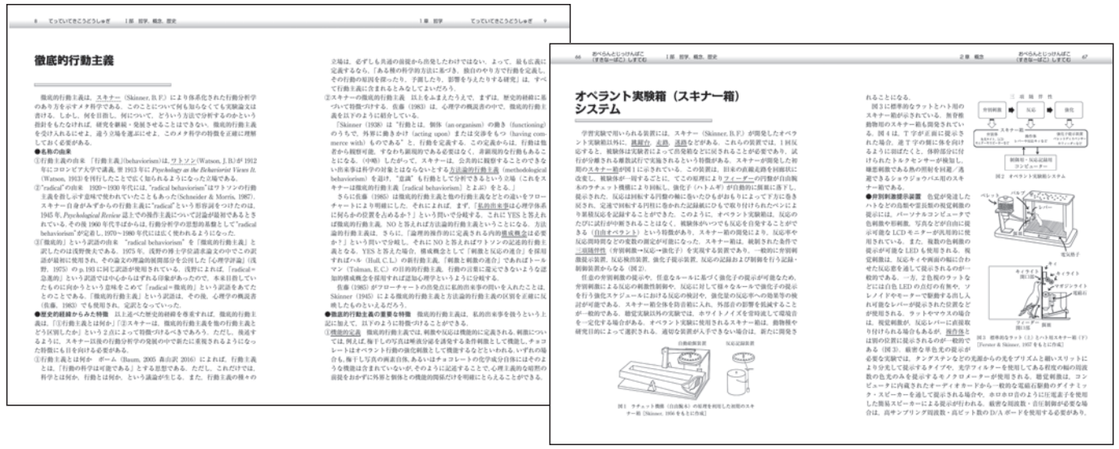
事典で取り上げる項目を吟味し，その結果，I 部（哲学・概念・歴史）に 37 項目，II 部（実験的行動分析）に 62 項目，III 部（応用行動分析）に 55 項目，IV 部（行動分析学における実践）に 18 項目を配置することにしました．
同じく 2016 年に，事典刊行にあわせて，行動分析学用語の整理が必要であることから，総務委員会の下に「用語検討特別委員会」が設置されました．2018 年 9 月までに 200 語の「行動分析学用語・基本用語（推奨順つき）」がリスト化されました．

本事典で使用している基本用語は，上記の用語検討特別委員会による用語リストに基本的に依拠しています．しかしながら，従来から使用されてきた用語（訳語）との互換性にも配慮するために「複数の用語を併記する」という記載方法も適宜採用しています．

行動分析学は，喩えるなら，アントニ・ガウディが基本的な設計をし，その後，紆余曲折を経ながらも，今も建築され続けている「サグラダ・ファミリア教会」と言えるかもしれません．この比喩が許されるならば，この『行動分析学事典』は，さしずめ刊行毎に撮影されるスナップショット（定点観測）といったところでしょうか．おそらく，この初版の執筆者たちが，行動分析学という建築物の完成を目のあたりにすることはないでしょう．しかし，このような一大プロジェクトに微力ながらも参与できたことは，何ものにも代えがたい喜びでした．そして，この事典を手にした方が，「このバトン」を受け取り，次の方に繋いでくださることを切に願っています．

2019 年 3 月
行動分析学事典・編纂特別委員会
編纂委員主幹　武藤　崇

心理職の国家資格「公認心理師」の誕生によりさらなる発展が期待される行動分析学



Contents

I 部　哲学，概念，歴史　（37 項目）

1 章　哲学
心理学と行動分析学●徹底的行動主義●因果分析●行動の原因●行動分析学と倫理

2 章　概念
意識●言語行動●オペラント行動●レスポンデント行動●三項強化随伴性●刺激性制御●反応形成（シェイピング）：基礎●強化●強化（単一強化）スケジュール●強化（複雑な強化）スケジュール●オペラント実験箱システム●反応の測度●行動の量的分析●累積記録●実験計画法（群間比較法）―そのロジックとデザイン●実験計画法（個体内条件比較法）その 1―そのロジックとデザイン・定常状態●実験計画法（個体内条件比較法）その 2―反転法・ABA 法●実験計画法（個体内条件比較法）その 3―多層ベースライン法●実験計画法（個体内条件比較法）その 4―その他のデザイン●行動観察（法）●統計的方法―グループデザイン・シングルケースデザイン●図表現●再現性●研究の機能●インストルメンテーション●実験的行動分析学●応用行動分析学●心理療法●行動療法・認知療法・認知行動療法

3 章　歴史
行動分析学の歴史（過去・現在・未来）●世界と日本の行動分析学●行動分析学の雑誌

II 部　実験的行動分析　（62 項目）

1 章　実験セッティング
オペラント実験箱と累積記録器●剥奪処置●様々な動物種での実験●条件づけの生物的制約●動物実験倫理

2 章　強化と弱化
プレマックの原理：基礎●感性強化●条件強化●遅延強化●バイオフィードバック●負の強化（除去型強化）●反応非依存強化●強化による行動低減●比率スケジュール●時隔スケジュール●反応率分化強化●複合スケジュール●スケジュール誘導性行動●分化結果手続き●消去●消去後の反応再出現●行動変動性●弱化（罰）●タイムアウト●ヒトの実験における反応コスト●行動履歴●行動モメンタム：基礎

3 章　刺激による制御
刺激馴化●刺激般化●弁別学習訓練●行動対比●概念学習●無誤弁別学習：基礎●計時行動●刺激競合●観察学習●自動反応形成●刻印づけ●連鎖化：基礎●系列学習●見本合わせ：基礎●刺激等価性：基礎●言語行動と非言語行動●ルール支配行動●意識性●関係フレーム理論

4 章　選択行動
選択行動●選択行動の理論●対応法則（マッチング法則）●遅延低減仮説●セルフ・コントロール（自己制御）：基礎●価値割引：基礎●価値割引：その展開●行動的意思決定

5 章　展開と関連領域
オペラント行動の個人差●社会的行動●比較認知●コロンバン・シミュレーション計画●行動神経科学●行動薬理学●行動生態学●行動経済学

III 部　応用行動分析　（55 項目）

1 章　言語行動
マンド●タクト●イントラバーバル●エコーイック●オートクリティック●テクスチュアル，トランスクリプション，テキストコピーイング

2 章　基本手続き
反応形成（シェイピング）：応用●プロンプト●身体的ガイダンス●モデリング●般化模倣●課題分析●連鎖化：応用●見本合わせ：応用●無誤弁別学習：応用●刺激等価性：応用●機能的行動アセスメント●強化介入による行動低減●非随伴性強化●選択と好み●般化と維持●確立操作●プレマックの原理：応用●集団随伴性●行動モメンタム：応用●社会的妥当性

3 章　援助・介入手続き
離散試行型指導法　機会利用型指導法●トークンエコノミー法●機能等価性●セルフ・コントロール（自己制御）：応用●セルフ・マネジメント（自己管理）●自己記録・自己目標設定●行動契約（随伴性契約）●言行一致訓練●代表例教授法●公的掲示●習慣逆転法●クリッカートレーニング●行動コンサルテーション●行動的コーチング●パフォーマンス・マネジメント

4 章　プログラム／パッケージ／トリートメントモデル
ロヴァース法●ポーテージプログラム●機軸反応訓練（PRT）●絵カード交換式コミュニケーション・システム（PECS）●ポジティブ行動支援（PBS）●アチーブメント・プレイス●プレシジョン・ティーチング●アクセプタンス&コミットメント・セラピー●機能分析心理療法●行動活性化療法●STAR●ペアレント・トレーニング●CRA と CRAFT●「体罰」に反対する声明

IV 部　行動分析学における実践　（18 項目）

医療●医療（看護）●理学療法●作業療法●言語聴覚療法●心理臨床（病院）●心理臨床（相談室）●心理臨床（個人開業）●一般教育（教科教育）●一般教育（学級・学校運営）●社会福祉●介護福祉●精神保健福祉●動物福祉●動物訓練（トレーニング）●スポーツ●組織・企業●コミュニティ

付録　行動分析学 年表